

双胎妊婦を対象とした保健指導の一考察 双胎妊婦の求める情報や支援

key word 双胎妊婦 保健指導 支援

9階東 ○大越寛子 河谷麻貴 田口麻里子 渡辺久美子

はじめに

双胎の妊婦は一般的に早産や前期破水などのリスクが増加することや¹⁾、身体的な自覚症状も強いことが明らかになっている²⁾。また、帝王切開になる割合も高く、分娩方法の選択のための情報提供が必要とされている¹⁾。精神面については、漠然とした不安を抱き、育児へのイメージがつきにくいという訴えがある^{2) 3)}。単胎より双胎妊婦の方が児が健康に生まれてきてくれるか、育児がうまくできるか、経済的に負担が大きいのではないかという多くの不安を抱えて妊娠期を過ごしている⁴⁾。しかし、双胎妊婦は妊娠や育児に関しての情報取得ができていないともいわれている⁵⁾。産後の母親の声を聞くと、休息時間が少ない、育児の仕方がわからないという不安が聞かれている^{2) 3) 4) 5)}。近年、情報収集ツールの多様化により、妊婦は氾濫する情報の中におかれている。妊娠中からの専門職のアプローチは妊娠経過の過ごし方へはもちろんのこと、育児に対しても大きな影響を与えるといわれている⁶⁾。

当院は、地域周産期センターとしてNICUが併設されている施設である。当院の双胎の分娩件数は、2005年13件、2006年20件、2007年22件、2008年33件と年々増加している。当院では妊婦全員を対象に3回に渡る両親学級を実施している。双胎の妊婦に対しては、外来で助産師が個別で保健指導を行っている。また、病棟では双子を出産した褥婦から想像以上の育児の大変さや、イメージがつかないことへの戸惑いの声を聞くことが多い。そこで、双胎妊婦の支援方法を再検討し、双胎妊婦が助産師に求めている情報や支援を明らかにしたいと考えた。

I 目的

双胎妊婦が求めている情報や支援（足りない点）を明らかにする。

用語の定義

保健指導：専門職が妊婦に対して情報を提供する機会、妊婦が不安を表出できる機会、妊婦が求める情報を取得する機会

双胎妊婦：双胎を妊娠している妊娠22週から36週の妊婦

II 研究方法

1. 研究対象

当院の外来通院中の妊娠22週から36週の双胎妊婦

2. 研究期間

2009年8月から12月

3. 対象の選出、研究協力依頼手順

- 1) 外来カルテより対象を選出した。
- 2) 対象者の外来受診前後に、文書と口頭により研究の目的および協力内容を説明した。家族がいる場合は、家族にも同席あるいは個別で説明を行った。
- 3) 同意が得られた時点で同意書にサインをもらった。

4. データ収集手順・調査内容

- 1) 外来カルテより事前に対象の基礎情報を得た。
- 2) 研究者が保健指導実施前にアンケートの記入を依頼した。
- 3) 外来で、研究者は保健指導マニュアルに沿って保健指導を実施する。研究者は指導中に補足した内容を記録した。
- 4) 研究者が保健指導実施直後に対象者にアンケートの記入を依頼した。
- 5) アンケート記入直後に研究者がインタビューガイドに沿ってインタビューを行った。

5. データ分析

- 1) 保健指導後アンケート、保健指導中補足内容の記述、インタビューをテープ起こしした文章から双胎妊婦が必要としている情報や支援を一文一意味単位として抽出した。意味内容の類似しているものを集め、カテゴリー化し、それらを大カテゴリーとして命名を行った。さらに大カテゴリーの中で分類を行い、中カテゴリーの分類を行った。カテゴリーの分類、命名については、スーパーバイザーを交えてさらに検討を行った。
- 2) 保健指導に対する思いや感想は、内容を類型化し、構造化を試みた。
- 3) 保健指導内容の理解度を、保健指導前アンケート、保健指導後アンケートで5段階（1知っている 2だいたい知っている 3どちらともいえない 4聞いたことはある 5知らない）で評価した。各内容の平均値をだし、前後で比較した。
- 4) 情報源に関しては割合を算出した。

Ⅲ 倫理的配慮

東京医科大学医学研究倫理審査委員会の承認を得た。対象者に健康被害や治療・療養上の不利益が生じた場合には、医療スタッフが適切な処置を行い、十分に経過観察を行うこととした。手順に沿って説明を行い、同意を得た。同意を得た後にも、いつでも断ることができることを説明した。個人を特定できないように、対象名をコード化した。研究終了後データ収集資料は破棄した。

Ⅳ 結果

妊娠22週から36週の双胎妊婦11名を対象に行った。対象者の背景を表1に示す。平均年齢は33.9歳であり、経産婦は4人、初産婦は7人であった。双胎妊婦が必要としている情報や支援を一文一意味単位として抽出した結果、総文章数は68文章であった。大カテゴリーは「妊娠経過」「分娩」「育児」の3つに分類された。結果を表2に示す。

「妊娠経過」については15文章あり、全文章の22%を占めた。中カテゴリーは、マイナートラブルとその対処方法(6)、身体の変化(4)、双胎妊婦に起こりやすい病気(2)、膜性(1)、妊婦体操(1)、妊娠経過(1)の6つであった。

「分娩」については23文章あり、全文章の34%を占めた。中カテゴリーは、入院するタイミング(9)、分娩方法(6)、入院生活(4)、NICU、保育器(4)の4つであった。

「育児」については30文章あり、全文章の44%を占めた。中カテゴリーは、育児準備品(12)、育児について(5)、授乳(5)、仕事復帰(3)、上の子について(3)、育児サークル(1)、家事(1)の7つであった。

保健指導に対する思いや感想を構造化したものを図3に示した。「よかった」「安心した」という感想が最も多かった。しかし、「知りすぎて不安になる」「慎重になる」という意見も聞かれた。そのほかに、双胎妊婦の思いや保健指導に対する要望も明らかになった。具体的には双胎の育児の実際を聞きたいという声や、指導の時期について妊娠初期の頃から具体的な指導を受けたかったという声などが聞かれた。また、育児サークルについて知りたい、や双胎妊婦同士の交流の場が欲しいという要望があった。

保健指導前アンケートの理解度の平均値は3.492、保健指導後アンケートの理解度の平均値は1.198であった。また、情報源は本、インターネット、家族、友人、医師、助産師、テレビ、区役所の順に多かった。

Ⅴ 考察

産後の母親は、休息時間が少ない、育児の仕方がわからないという不安が聞かれると言われており²⁾ 3) 4) 5)、双胎妊婦が必要としている情報や支援は

「育児」が最も多かったため、妊娠期から育児に関する具体的な指導を行っていく必要性は高いと考えられた。また、育児の実際を聞きたいという声があり、具体的なイメージを持つためにも双胎妊婦と褥婦や双胎妊婦同士の交流の場を提供することは重要であると考えられる。

指導を受けて良かった、安心したという感想が多く聞かれ、自身で情報が取得できる情報化社会の中でも、医療者が保健指導を行うことは、情報の整理や新たな情報の取得のため、また不安を軽減するためにも有意義なものとなることを改めて確認することができた。しかし、指導内容によっては知りすぎることによって不安になる、慎重になるという反応もあった。合併症やマイナートラブルが起こる可能性は知っておく必要があるが、対象の背景や指導の時期、指導の受け止め方等を考慮しながら週数に応じた指導を段階的に進めていくことが好ましいと考えられた。

Ⅵ 結論

双胎妊婦が求めている情報や支援は、妊娠経過、分娩、育児の3つに分類され、育児、分娩、妊娠経過の順に多かった。

引用・参考文献

- 1) 荒木勤. 最新産科学 異常篇. 東京, 文光堂, p.114-117, 2002.
- 2) 杉本昌子, 横山美江, 和田左江子他. 多胎児をもつ母親の不安状態と関連要因についての検討: 単胎児の母親との比較分析から. 日本公衆衛生雑誌. 55 (4), 213-220, 2008.
- 3) 芦田慎子, 原田由紀. 双胎の育児をする母親を支える要因: 双胎と単胎の母親に対するアンケート調査を比較して. 日本看護学会論文集. 母性看護. 35, 134-136, 2004.
- 4) 横山美江, 中原好子, 松原砂登美. 多胎児をもつ母親のニーズに関する調査研究: 単胎児の母親との比較分析. 日本公衆衛生雑誌. 51 (2), 94-102, 2004.
- 5) 服部律子. 双子の母親の育児不安に影響する要因. 母性衛生. 48 (1), 38-46, 2007.
- 6) 服部律子. 双子の母親の精神健康度に関与する要因の分析. 母性衛生. 48 (1), 142-151, 2007.
- 7) 石村由利子, 前原澄子. 双胎妊婦のストレスと看護に関する研究(第2報). 母性衛生. 40 (2), 219-229, 1999.
- 8) 石村由利子, 前原澄子. 双胎妊婦のストレスと看護に関する研究(第1報). 母性衛生.

- 40 (1), 120-129, 1999.
- 9) 石村久美子, 舛森とも子, 三石知左子他. 楽しくお産楽しく子育て 周産期医学から出産・育児を考える: 出産篇 快適なお産に向けて 産前教育 多胎両親学級. 周産期医学. 32 増刊号, 105-109, 2002.
- 10) 古家さとみ, 磯部貴子, 大坪麻衣子他. 多胎児を持つ妊産褥婦への支援. 周産期医学. 36 (5), 549-551, 2006.
- 11) 井上京子, 宮川祐三子. 多胎児への援助: 母親, 家族への支援を中心に. 周産期医学. 36 (6), 738-742, 2006.
- 12) 渡辺美穂, 清水垂矢, 鈴木晴香他. 多胎学級: 葛飾赤十字産院の「ツインクラス」ペリネイタルケア. 24 (S). 201-210, 2005.
- 13) 北岡英子, 杉原一昭. 双胎育児の実態と育児支援に関する研究 (第2報). 小児保健研究. 61 (5). 669-676, 2002.
- 14) 矢野恵子, 小池和世. 双子を持つ母親の現状と求められている支援. 母性衛生. 42(2). 340-352, 2001.

(表1) 対象の背景

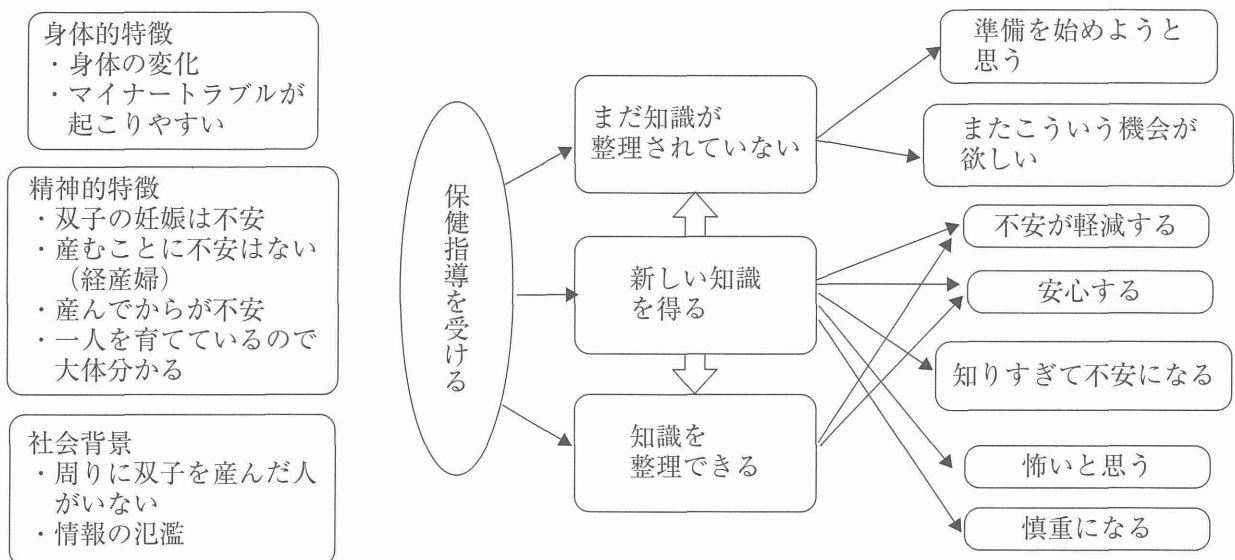
	年齢	妊娠週数	妊娠分娩歴	今回の妊娠	妊娠経過 (異常の有無)	MC への参加
A	30代	25週	0 G 0 P	自然妊娠	悪阻で入院 (3日間) 切迫早産で入院 (23日間)	あり (当院)
B	30代	22週	2 G 1 P	不妊治療	OHSS のため入院 (17日間)	あり (当院)
C	30代	25週	0 G 0 P	自然妊娠	ウテメリン内服	あり (当院)
D	30代	26週	0 G 0 P	不妊治療	なし	なし
E	30代	34週	2 G 1 P	自然妊娠	貧血	なし
F	20代	29週	0 G 0 P	自然妊娠	なし	あり (当院)
G	30代	35週	2 G 1 P	自然妊娠	なし	なし
H	30代	23週	3 G 2 P	自然妊娠	胎盤の位置低め 体重増加	なし
I	30代	24週	0 G 0 P	自然妊娠	ウテメリン内服	あり (当院)
J	30代	26週	0 G 0 P	不妊治療	なし	あり (当院)
K	30代	22週	0 G 0 P	不妊治療	低位胎盤	あり (区)

(表2) 抽出された文章

大カテゴリー	中カテゴリー	具体的内容	
妊娠経過	膜性 (1)	・一卵性について	
	マイナートラブル (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・胃の不快感の対処法 ・何週位から浮腫みが出るか? ・7ヶ月で胃もたれが出るのは早いですね。 ・浮腫、腰痛はどのくらいの時期に起こるのか? ・そろそろ足がつる頃だと友達が教えてくれる。 ・双子ではない妊婦の友達に胃もたれについて聞いたら「それは9ヶ月位だよ」って言われちゃいました。 	

	<p>身体の変化 (4)</p> <p>妊婦体操 (1)</p> <p>病気について (2)</p> <p>妊娠経過 (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の変化が予想していたより早くくる。(3) ・お腹はどこまで大きくなるのか？ ・妊婦体操について ・切迫早産について ・双胎妊娠に起こりやすい病状・病気について ・妊娠経過について 	計 15
分 娩	<p>入院するタイミング (9)</p> <p>分娩方法 (6)</p> <p>入院生活 (4)</p> <p>N I C U ・ 保 育 器 (4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに入院するとしたらどのような治療をするのか？ ・管理入院することはあるのか？ (4) ・入院するタイミング (4) ・分娩方法、リスクについて (5) ・手術やお産の方法についてどうやって決定するのか？ ・上の子の面会について ・入院中の生活について (3) ・保育器にはどういう時に入るのか？ (2) ・N I C U について (2) 	計 23
育 児	<p>育児について (5)</p> <p>育児準備品 (12)</p> <p>育児サークル (1)</p> <p>仕事復帰 (3)</p> <p>授乳 (5)</p> <p>上の子 (3)</p> <p>家事 (1)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰ってからの具体的な育児 (4) ・まだ知識が整理されていないので、双子に特化した育児に関する知りたいことはこれから出てくると思う。 ・ベビーシートについて ・ベビーカーについて (4) ・生まれた後は何が必要か知りたい ・授乳ホルダーがないと授乳できないよといわれた。 ・育児準備品 (3) ・育児用品はまだ準備していない。 ・買うものは最小限にしたい、代用したい。 ・育児サークルについて ・いつ頃仕事復帰できるか？ (3) ・母乳がやっぱり2人だと足りないことがあるのか？ ・授乳の方法が知りたい (便利グッズなど) (2) ・乳房マッサージについて ・上の子の時は飲む量が増えるとミルクを使った。 ・上の子との接し方 (2) ・上の子は保育園に預けるので里帰りはしない。 ・家事を行えるのか心配 	計 30
保健指導	<p>聞いてこわかった、不安になった (3)</p> <p>不安軽減になった (3)</p> <p>慎重になった (1)</p> <p>準備してみて分からない事が出たら聞きたい (6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いたことで不安になることもある。 ・お産や病気について初めて聞いてこわかった。 ・病気や分娩について少し怖い気持ちになった。 ・不安軽減になった。(2) ・今回のような機会をいただいて不安が和らいでいいと思いました。 ・話を聞いてこわいというよりは慎重になりました。 ・知識が増えた事でさらに分からない事や知りたい事が出てくると思う。 ・これから実際に用意して、分からなかったら聞きます。 ・これからまた出てきたら色々聞きたいと思う。 ・準備するものが分かったので、用意してみて分からないことが出てきたら聞きたい。 ・少しずつ準備をしていく。 ・まだ自分の中で整理ができていない。 	

一応知識として入れておく (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・知りすぎると逆に心配になってしまうかもしれないので一応知識として入れておく。 	
安心した (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・安心した。(3) ・よい機会になった。 ・丁寧に話してもらって良かった。 ・直接、話を聞くことが出来て良かった。 	
分かった(22)	<ul style="list-style-type: none"> ・だいたい分かった。(5) ・いろいろ勉強できてよかった。(2) ・詳しい内容が聞く事が出来て良かった。 ・知っておかなければならないことを知れて良かった。 ・今まで知っていた事を確認できて良かった。 ・一卵性の種類について聞いて良かった。 ・双子について細かい事がわかって良かった。 ・もともとあった知識が確認できて、すごく良かった。 ・入院中、授乳について実際の流れを聞いて良かった。 ・管理入院は絶対あると思っていたけど、ない人もいるとわかって良かった。 ・自分だけで本を読んで、ネットで調べてよりは、直接お話を伺うとそこまで考えなくてもいいこともあったんだとわかった。 ・お産はしたことはあるんですけど、こちらでは初めてなので、いろいろと聞いて良かったです。 ・2人産んでいるけど、双子に関してはまだ何も見たり調べたりしていないので、だいぶ参考になりました。 ・準備するものがわかった。 ・知識が増えた。 ・双子ちゃんならではの負担があることがわかった。 ・情報と現実の違いについて説明してもらい安心した。 	
情報を得る機会 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・これより前だと (24 週) 現実味がわからないのでちょうど良かった。 ・周りに双子のお母さんがいないので、この機会を与えられ有意義で良かった。(3) ・周りに同じような (双子) のお母さんがいない。(2) ・双子のママとの交流が欲しい。 ・予定日の近い双子のお母さんと情報交換したい。 ・本とかネットとかで情報があふれている。 	計 51



(図3) 保健指導に対する思いや感想を構造化したもの